

新たな新潟米の価値創造

「新潟県山田錦協議会」が発足!

酒米の供給過剰が懸念され、山田錦の高品質化を目指す!

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



3月26日、見附市ア
ルカディアホールで播
種前研修会を開催し、
その中で「新潟県山田
錦協議会」が発足しま
した。
協議会は、昨年2月
に設立した「新潟・山
田錦栽培会」と本年3
月に設立した「山田錦
栽培研究会」が中心と
なり、新潟県を網羅す
る山田錦の協議会とな

ります。
前段は、上越市から新潟市
まで、山田錦の生産者約70名
余が参加し、満場一致で協議
会を設立しました。
協議会では、

- ①栽培基準の統一
 - ②研修会の開催
 - ③米検査基準の統一
 - ④ブランド化に向けた活動
- を、行うこととし、年間の大
まかな活動スケジュールを決
定しました。

酒米に対する品質の認識

後半は、播種前指導で淡路
良一先生から「平成27年度山
田錦栽培のポイント」につい
て2時間余りの講義を受けま
した。先生からは「軟質米

はデンプン粒子が粗いので
酒造用に適さない。新潟県産
は軟質米になりやすい。」と
指摘。

そこで、「硬質米」の山田
錦を栽培するポイントとして、

- ①浸種期間で種籾の胚乳摩
耗を少なくする
 - ②苗、1・5葉まで胚乳が
確認できる苗
 - ③乾物重の高い苗づくり
 - ④黄化色を出さない
- を強調されました。
そして、写真などの資料も
ふんだんに使い、具体的な栽
培方法を指導されました。

平成27年度も淡路良一先生
にご指導を受けながら、協議
会全体で品質向上を目指した
と思います。

「山田錦」に栽培基準

県内農家が協議会 酒米品質を向上

新潟県のコメ農家で構
成する山田錦協議会が26
日、発足した。酒造好適
米の一種である山田錦を
栽培する。これまで個別
に農家が集まり栽培会と
して活動してきたが、協
議会は栽培基準を設け、
品質を一段と高める。約
80の個人農家や農業法人
が参加し、2015年産
で600トの生産を目指す
。産地間競争が激化す
る中、県内農家が協力し
てブランド化を目指す。
同日、見附市内で協議
会設立の会合を開いた。
県内の農業関係者約70人
が集まり、専門家が良質
な山田錦を栽培する方法



新潟山田錦協議会 活動予定

5月	富士通「AKISAI」導入(若手中心)
6月16日	第1回検査員研修・現地研修 ・山田錦の検査方法の打ち合わせ ・山田錦の目合わせ ・コンタミ対策
7月20日 ~21日頃	現地交流(富山県) ・山田錦産地に圃場視察、営農 指導担当からの講義
8月20日	第2回 検査員研修 圃場研修 暑気払い 
10月15日	第3回検査員研修 ・平成27年岡山県産山田錦を標準 見本に目合わせを行う
10月~	DNA検査 ・全生産者のDNA検査を実施、 コンタミの対策
11月15日	27年産の総括 ・品質やオペレーション等の総括 28年度に向けた対策
11月下旬	全国のデータ集約 ・富士通と全国の27年産山田錦の 分析(山口県)
12月2日	反省会 ・平成27年産の分析と総括、来年 度への対策

2015年3月27日 日経新聞より